

科目名	異文化理解	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	小山田 紀子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-A-1-210003		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究方法を体得していること		
授業の目的	<p>いま日本では「ヒト、モノ、カネ、情報」の国境を越えた往来が活発に行われ、国際化が急速に進んでいる。この国際化の波は私たちの生活にさまざまな影響を与えている。われわれの身のまわりでも外国人の姿が目立つようになったし、また私たちが海外に出て行くチャンス-海外旅行、留学、ビジネスなど-も増えてきている。そしてそれは多かれ少なかれわれわれに異文化接触の機会を提供することになる。このような国際化の時代において、「異文化理解」の必要性が声高に唱えられるようになってきたのだといえよう。しかし、異文化への理解というと、とかくそれ自体がよいことであるようなニュアンスがあるが過去には植民地支配のための異文化理解もあったし、市場獲得を目的とした異文化理解もありうるわけで、そう考えると、何のためのどのような異文化理解かが問われなければならないであろう。また、異文化というと何も国際間のことだけではなくて、国内の異文化もあるわけで、国内の文化を単一的なもの捉える感覚が、異なった文化の拒否や排除につながっていくケースも見られるのである。</p> <p>本講義では、私の海外生活の経験を踏まえて、異文化接触の諸相をさまざまな事例から紹介していきたい。ヨーロッパにおける移民問題、日本における在日韓国朝鮮人問題や外国人労働者問題、国際交流や教育の国際化がもたらす問題、あるいは個人のレベルでは国際結婚というテーマもあるであろう。さまざまな角度から異文化理解の問題を考えていきたい。さらに国際化時代から地球時代へと移り変わりつつある今日、われわれは異文化理解を通して、自分の国の利益だけにとらわれずより広い普遍的な発想を持つ地球市民としての生き方が求められているといえよう。</p>				
学修到達目標	2年次後期（または3年次後期）の海外留学や今後の異文化接触の機会に役立つ視点を獲得すること。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	序論-私の異文化体験-フランスと北アフリカ
第2回	異文化接触の諸相-ヨーロッパの移民問題（総論）
第3回	フランスの移民問題（1）

第4回	フランスの移民問題（2）
第5回	フランスの移民問題（3）
第6回	日本の外国人労働者問題（1）
第7回	日本の外国人労働者問題（2）
第8回	日本の外国人労働者政策と「移民政策」の今後
第9回	日本における「異文化理解」と多文化共生の試み-いちょう小学校の事例-
第10回	日本における「異文化理解」の試み-日本のムスリム（イスラーム教徒）の文化と社会-（1）
第11回	日本における「異文化理解」の試み-日本のムスリム（イスラーム教徒）の文化と社会-（2）
第12回	日本における「異文化理解」と多文化共生の試み-群馬県大泉町の事例-
第13回	日本における「異文化理解」と多文化共生の試み-移民・難民と日本社会-

第14回	異文化理解の授業総括-平和のグローバル化のために-
第15回	定期試験-レポート-
第16回	第5回目に、中間レポートの課題を課す。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習には、配布プリントを読んだり、興味のある文献を探してみる。(必要な時間は2時間)
【復習】時間・内容	復習は授業で話した内容についてノートやプリントを振り返って、ノートに自分の考えをあとめておく。必要な時間は2時間。

成績評価	
評価基準・方法	中間レポートの点数(30点)、期末試験(レポート)の点数(70%)を合わせて総合的に評価する。各回に学生にコメントペーパーを書いてもらい、次回の授業でその内容を紹介したり、質問に答えたりし、教員と学生との双方向的な授業を進める。したがって、中間レポートや期末試験の課題については、これらの双方向的な学生とのやり取りを踏まえていることが評価に反映される。
フィードバック方法	試験(レポート)の講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	
教科書/参考書	<p>教科書は使用しない。</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山本三春『フランス ジュネスの反乱』 大月書店、2008年 ・依光正哲編著『日本の移民政策を考える』、明石書店、2005年8月 ・高谷幸編著『移民政策とは何か：日本の現実から考える』 人文書院、2019年4月 ・限界国家-人口減少で日本が迫られる最終選択-』朝日新書、2017年6月 <p>その他は授業時間中、適宜指示する。</p>
受講上の留意点等	授業への出席を重視します。
JABEE	